

昭和40年代～現在

修学旅行の移り変わり

農林学校時代の東京・鎌倉の旅先から、時代の移り変わりとともに、京都・広島、九州、現在の沖縄へと変化していきました。

昭和の定番コース 京都・広島修学旅行

一日目に京都で班別研修をおこない、二日目に山口県秋芳洞や萩をまわって広島へ移動し、宿泊。三日目に原爆ドームを訪問し、宮島を観光して終わりました。最終日は広島から萩原へ帰路についたそうです。



平成3年から 北部九州修学旅行

平成3年度から、3泊4日の北部九州への修学旅行に変更となりました。一日目、萩原を出発し、新幹線で九州へ入りスペースワールド。二日目に太宰府天満宮、吉野ケ里遺跡、磁州窯、姫野温泉へ。三日目、長崎にてオランダ村、長崎平和公園、市内研修。最終日は、博多から新大阪、名古屋経由で帰路につきました。



平成10年から 沖縄修学旅行

飛行機の利用が可能となり、現在と同じ沖縄に変更となりました。一日目、ネオパーク沖縄、万座毛、恩納村。二日目、グラスボート、国営沖縄記念公園、沖縄フルーツランド、安保の丘、佐喜真美術館、国際通り。三日目、沖縄平和記念公園、琉球ガラス村、ひめゆりの塔、旧日本海軍司令部。最終日、首里城公園見学から帰路です。タクシー研修はまだありませんでした。

